

人々の幸福「ウェルビーイング」を実現する未来ビジネスの創出に向けて

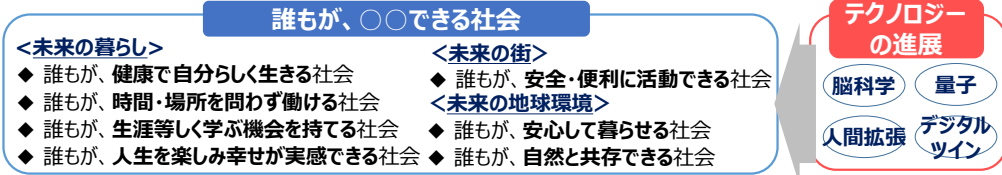
基本認識

■ 技術革新やデジタル化が急速に進展する中、日本・関西が国際的な競争力を確保し持続的な成長を実現するためには、テクノロジーの進展がもたらす社会・産業構造の変化を探り、未来社会を展望するとともに、世界に先駆けて新たなビジネスの種を見出し、それらをいち早く実現させていくことが肝要である。本提言は、未来ビジネスの創出に向け、日本・関西、そして我々自身が取り組むべきことについて取りまとめたものである

テクノロジーの進展と目指す未来社会

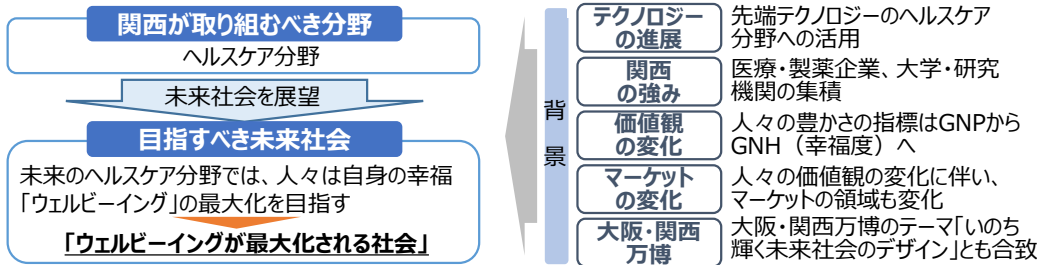
○未来社会の予測（未来予想図）

- 未来社会は、テクノロジーの進展により、新たに様々なことができるようになる「誰もが、〇〇できる社会」と予測
- 人々は多様な価値観を認め合い、健康で自分らしい「暮らし」を送り、安全で便利な「街」、安心で持続的な「地球環境」が実現し、誰もが幸福で豊かな人生を送ることができる、明るい未来の到来が予見される



○関西が取り組むべき分野と目指すべき未来社会

- 関西が取り組むべき分野は、テクノロジーの進展の先にあるビジネスの可能性と、関西の強み（歴史と文化、企業・大学の集積等）の観点から、ヘルスケア分野
- ヘルスケア分野を1つの起点としながら、従来の医療・診療だけでなく、未病・予病から精神的充足までもカバーすることで、人々は自身の幸福の最大化を実現することが可能になる



未来社会における新たなビジネスの可能性

○未来社会におけるビジネスの具体例

- ◆ 遠隔診療、◆ 睡眠データで健康管理、◆ AI診断・診療、◆ 腸内フローラに応じた免疫増強
- ◆ 人間拡張・デジタルツインによる社会参加支援、◆ AIと脳科学による精神疾患の診断・治療 等

○未来社会・ビジネスの創出に向けた現状と課題

- 具体的ビジネスの実現に向け、人々の価値観の変化や、テクノロジーの進展といった変化に対して、柔軟かつ迅速な対応が必要との認識から、「変化への対応」という切り口で、現状と課題を整理

【社会環境の変化への対応】 ← 価値観の変化に伴い社会やマーケットに変化が発生

- 現状**
 - マーケットは裾野を広げながら急速に拡大（ビジネスチャンスの到来）
 - ヘルスケアマーケットに対する企業の取り組みは自領域に留まっている
 - 大学シーズ発ベンチャーのうねりは生まれつつあるものの、大きな産学連携は不十分

- 課題**
 - ✓ 自領域に留まらずウェルビーイングの価値を共創・提供する高度なサービスを創出できるか
 - ✓ 関西発のビジネスモデルを構築し、全国に、更にはグローバルにスケールできるか
 - ✓ 産官学の役割の見極めと、その相乗効果による好循環を生み出す連携体制の構築
 - ✓ 「社会課題×研究開発×経営」の一貫した連携・人材育成モデルを作り出せるか

【テクノロジーの社会実装への対応】 ← 新しいテクノロジーにより不可能だったことが可能に

- 現状**
 - テクノロジーを社会実装化する際のリスク整理が不十分（ELSIの観点や認識が不足）
 - データ利活用、高度なサービス提供が迅速かつ柔軟に対応できない状況

- 課題**
 - ✓ 国による規制やルールの整備が必要（ルールはイノベーションの障壁ではなく手段へ）
 - ✓ 企業側でのリスクの評価と社会受容への対応体制の構築が必要
 - ✓ ウェルビーイングをもたらすサービスの効用 > データの収集への抵抗感の実感

未来ビジネスの創出に向けた提言

■ 「ウェルビーイングが最大化される社会」を実現する未来ビジネスの創出こそが、グローバルかつサステナブルに関西ひいては日本を飛躍させるための成長ドライバーであり、関西こそがその牽引役であるという認識のもと、日本・関西が取り組むべきことについて提言する

提言1 世界からベンチマークされるような共創型エコシステムを形成

- (1) 企業は、アカデミア（大学・研究機関・医療機関等）、スタートアップ、或いは消費者ともオープンに連携し、社会環境の変化に即応したビジネスを創出するイノベーションクラスターを形成
- (2) 企業は、産学連携し、研究開発能力 ×アントレプレナーシップの融合人材（ハイブリッド型戦略的企業家）を育成、或いは社外から積極的に登用【例：企業人材の大学への派遣・養成等】
- (3) 企業は、斬新なアイデアと機動性と柔軟性を持つスタートアップの支援や連携を更に活性化（スタートアップ・エコシステムのネットワーク機能向上への支援、特に金融面でのサポートの充実）
- (4) 関西企業は、関西の強みを活かし、業界横断のサービス連携を展開し、地域における好循環モデルを創出すべき（産学がコンパクトにまとまった関西ならではの魅力的なコミュニティの形成）

提言2 リスクを予見してビジネスチャンスを生み出すルールメイキングを

- (1) 企業は、自らELSIの対応方針を策定し体制を整備するとともに、自らのE（倫理）を築き、L（法律）やS（社会）に提案【例：企業内のELSIのガバナンス体制構築、人材育成等】
- (2) 企業、アカデミアは、生活者のあらゆるデータの収集、解析、利活用促進に向け、様々なプレーヤーが参画可能な共通のフレームを構築（検討の場にはデータを提供する国民自身も含めるべき）
- (3) 国は、新たなテクノロジーやサービスの速やかな社会実装に向け、ステークホルダーとの合意形成を意識しつつ、規制やルールを先回りして整備し、日本式ELSIの枠組みを早急に整理

提言3 未来への渴望感を持ち、フューチャードリブな経営を

- (1) 経営者は、次世代を担う若者と共に新しい未来を創る渴望感を持ち、ニーズドリブからフューチャードリブへと転換し、即断・実行の経営を実行
- (2) 経営者は、目指す未来のパーパスを明確に示し、共鳴する仲間と共に、未来ビジネスを創出 → 目指す未来のパーパスは「ウェルビーイングが最大化される社会」の実現